

なら医療DX通信

2025
OCT
Vol.6

医療現場に押し寄せるDXの波 ITを【苦手】から【パートナー】に

1. はじめに

医療現場のDX(デジタルトランスフォーメーション)が急速に進み、AIによる診断支援や業務効率化も、もはや未来の話ではなく具体的な導入も進んでいます。電子カルテの高度化、今後は地域医療連携やオンライン診療、さらには個別化医療の進展に伴い、ITスキルは一部の専門職だけでなく、すべての医療従事者にとって不可欠な素養となりつつあります。「ITは苦手だ」「何から学べば良いかわからない」と感じている方も少なくないでしょう。そんな皆さんにこそ、まず知っていただきたいのが国家試験「ITパスポート」です。

2. ITパスポートとは？

ITパスポートは、ITを利活用する全ての社会人が備えておくべき、ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験です。情報処理技術者試験の中では最も易しいレベル1に位置付けられており、あらゆる職種の人を対象としています。試験では、AIやビッグデータといった最新技術の動向から、情報セキュリティ、経営戦略まで、幅広い分野の基礎知識が問われます。合格率は約50%と、国家試験の中では比較的手が出やすく、IT初学者が体系的に知識を身につけるのに最適な試験です。

3. 医療のスキルとの「かけ算」で活きるITパスポートの知識

現状、医療従事者のITパスポート取得者はまだ少ないのが現実です。しかし、だからこそ、この資格を取得することには、個人のブランディングに大きな価値があります。

◆個人へのメリット

◎IT/AIへの苦手意識の克服: 体系的な学習を通じて、ITに関する漠然とした不安や抵抗感を払拭できる可能性があります。仕事として接することだけでなく、買い物、行政手続きなど、日常生活での利便性向上にも直結する可能性があります。

◎論理的思考力の向上: システムの仕組みやプロジェクトマネジメントの考え方を学ぶことで、物事を順序立てて考える力が養われます。

◎キャリアアップ: 院内でのDX推進担当や、IT関連の委員会で活躍できる可能性が広がります。また関係する企業などとの話もより深く理解でき、院外との交渉などでも活躍できるでしょう。

さらに現状では、ITに強い医療人材は非常に稀少であり、院外、医療現場以外でも活躍できる可能性を秘めています。

◆実務へのメリット

◎院内システムの理解: 電子カルテや各種医療情報システムの仕組みを基礎から理解し、より効果的に活用できるようになります。今後、ますます高度化してくるシステムを使いこなし、実務上も質と生産性の高められることが予想されます。

◎情報セキュリティ意識の向上: 患者さんの大切な個人情報扱う上で、情報漏洩などのリスクを正しく理解し、日々の業務で適切な行動が取れるようになります。

◎データ活用の基礎知識: 今後の医療の質向上に不可欠である「データ活用」の重要性を理解し、実際に扱い、現場に活かすための、その第一歩を踏み出せます。

6. まとめ

これからの医療は、ITと無縁ではられません。むしろ、これからの時代はITを使いこなすことが、より質の高い医療を提供し、患者さんからの信頼・安心を得るための重要な鍵となります。

ITパスポートの学習は、未来の医療現場で活躍し続けるための、確かな自己投資です。勉強に役立つ書籍も、たくさん出ていますし、試験対策のための無料動画もたくさん公開されています。

まずは公式ウェブサイトで公開されている過去問題に目を通すことから始めてみませんか？その一歩が、あなたの「苦手」から、ともに未来を切り拓く「パートナー」に変えるはずです。

本事例の共有が、地域の病院にもお役立ていただき、よりよい医療環境づくりに貢献できれば幸いです。

我々は、医療現場全体のDX推進を通して、患者、病院、医療従事者すべてに対してプラスに働くよう、今後も取り組みを継続します。

*内容について、さらに深く知りたい方は、
奈良県立医科大学 戦略的医療情報連携推進講座 までお問い合わせください。

Mail : spmic2024nmu@naramed-u.ac.jp



Dr.タマモンの 今月のひとこと

最近のハロウィンは、日本の病院でもちょっとしたお祭り気分。スマートウォッチなどのウェアラブルデバイスが「今日はお菓子食べすぎですよ！」と健康管理を徹底してくれたり、そんな未来もすぐそこまで来ています。ハロウィンの夜くらいは少し甘く見逃してほしいところですが、こんな医療DXが進めば、病院の業務も患者さんの健康もスマートに管理できるはず。デジタル化で、病院にやさしい魔法をかけましょう！

